

トガスグリ	<i>Ribes sachalinense</i> (F.Schmidt) Nakai	絶滅危惧Ⅱ類
		ユキノシタ科
選定理由	大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	下部が這う落葉小低木。枝にとげが無く、円心形の薄い葉は掌状に中裂する。裂片は鋭尖頭で鋭鋸歯があり、長さは10cm程度。葉裏に腺点が無く、径5mm強の10個ほどの両性花をつける10cm程度の総状花序は多毛。葉柄、子房、果実に腺毛があり、果実は赤熟する。	
生態的特徴	亜高山帯の針葉樹林下に生育する。花期は5月下旬-7月。	
分布状況	北海道、本州(中部以北)、四国(徳島県)、国外では樺太に分布する。岐阜県においては飛騨地方で確認されている。	
減少要因	生育地が分断され、生育面積が狭く個体群も極めて小さいため、環境の変化に影響を受けやすい。森林の伐採や林道工事などによる生育環境の変化が主な要因。	
保全対策	亜高山針葉樹林の冷涼な生育地の保全、創出。	
特記事項	開発工事の計画には、小規模な場合でも、事前の調査と細心の注意が必要である。	
参考文献	佐竹義輔他編集(1989)日本の野生植物 木本 I :p.161. 平凡社 大井次三郎(1983)新日本植物誌顕花編: p.818. 至文堂	

文責:後藤常明